

- 目標 (1) 自己の状況(体力・得意不得意)に応じた運動の領域・単元・種目を選択して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を身につけさせる。
- (2) 合理的・計画的な授業の実践を生徒自らが行えるようにさせる。
- (3) 健康・安全面の配慮・確保を自他共に実践できる資質を養わせる。
- (4) 運動・スポーツに対する意欲・関心を高めるとともに公正・協力・責任・参画の態度を養わせる。

位置づけ 各種運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、自己の状況に応じて体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育てる。

■使用する教材

現代高等学校保健体育（大修館書店）

■学習する単元とおおよその時期

- ・体づくり運動、体力テスト【4月】
- ・選択A・B（テニス／ソフトボール／サッカー／ゴルフ／バドミントン）【5～8月】
- ・選択C・D（バレーボール／バスケットボール／卓球／トレーニング・ダンス）【9～12月】

■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法

- ① 一人の生徒は1年間（4月～12月）に4種目（Aから1つ、Bから1つ、Cから1つ、Dから1つ）を選択する。
- ② 選択した種目ごとに班（グループ）を作り、その班ごと（グループごと）に全体の授業計画や毎時間の授業計画を立てる。1年間を見通して幅広く各種の運動を経験し、生涯スポーツにつながるように取り組みさせる。

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	① 競技のルール・マナー等を理解し遵守することができ、ゲームや発表会などの運営に携わることができる。 ② 練習内容や練習方法を研究し実践できる。	① 単元計画・授業計画に自分の考えを反映させることができる。 ② やるべき事や徹底事項を自ら守り、班全体の活動の活性化に寄与することができる。 ③ 安全に留意した上での活動ができる。	① 積極的に参加し、自己の言動が班員に良い影響を与えることができる。 ② 教える側・教わる側の姿勢が身につけている。③活動・運動に適したW-UPやC-DOWNを実践することができる。
	上記①・②について概ねできる。	上記①・②・③について概ねできる。	上記①・②・③について概ねできる。
	上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。

■単元テスト予定表

単元テスト	種目	実施予定	単元テスト	種目	実施予定
1・2	テニス／ソフトボール／サッカー／ゴルフ／バドミントン(2種目)	6月/8月	3・4	バレーボール／バスケットボール／卓球／トレーニング・ダンス(2種目)	10月/12月

